

MIS036-P139

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 14:15-16:15

東北地方太平洋沖地震による福島県南部から茨城県の沿岸災害の現地調査 A field survey of coastal disaster in South Fukushima and Ibaraki by the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake

下川 信也^{1*}, 飯塚 聡¹, 村上 智一¹, 納口 恭明¹, 栢原 孝浩¹, 酒井 直樹¹

Shinya Shimokawa^{1*}, Satoshi Iizuka¹, Tomokazu Murakami¹, Yasuaki Nohguchi¹, Takahiro Kayahara¹, Naoki Sakai¹

¹ 防災科学技術研究所

¹ NIED

東北地方太平洋沖地震による福島県南部から茨城県の沿岸災害の現地調査を実施した。主に津波と液状化による被害に焦点を当てて、4月1日に茨城県潮来市からひたちなか市まで北上、4月8日に福島県いわき市四倉町から茨城高萩市まで南下しながら、調査を行った。

津波による被害が大きかったのは、福島県では、四倉漁港、薄磯地区、小名浜港、茨城県では、那珂湊港、大洗港、京知釜海水浴場、鹿島港（順に北から南）、などであった。津波最大波高は、福島県沿岸で5-10m程度、茨城県沿岸で3-8m程度であった。

調査対象地域で最も津波被害が大きかったのは、福島県薄磯地区で、防潮堤の破堤により、壊滅的な被害を受けた。しかし、その近隣の富神岬では、津波被害は小さく、津波の方向や地形などの地域的な特性が被害の大小を分けたと考えられる。そのほかの被害が大きかった地域の近隣の地域でも同様の傾向が見られた場所があった。

液状化被害の最も大きかったのは、茨城県鹿島港で、調査対象地域内では最も南部に位置するため津波最大波高は小さい方であったと推定されるが、液状化により壊滅的な被害を受けている場所もあった。一方、茨城県大洗港より北では、液状化被害は小さく、地盤の固さなどの地域的な特性が被害の大小を分けたと考えられる。

発表では、4月14日から15日に行った岩手県沿岸部の現地調査の概要についても報告する予定である。

キーワード: 東北地方太平洋岸地震, 津波, 液状化, 現地調査, 福島県, 茨城県

Keywords: the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, Tsunami, Liquefaction, Field survey, Fukushima, Ibaraki